



# 同窓会会報平成二十七年秋号

創立七十周年に向けて

平成二十八年十一月十二日

(土) 挙行予定で準備に入りました

同窓会 会長 梅田 清永



平成26年6月の同窓会定期総会において会長に選任され、今年6月7日(日)の同窓会定期総会を経て、同窓会会長として2年目に入りました。これは、同窓会会員の皆様方をはじめ、諸先輩方のご協力の賜物と感謝しております。同窓会活動において常に問題となっている課題は

- 一・同窓生が一人を超えたにも拘わらず、同窓会員が少なく、年々同窓会費の納入額が減少していること
- 二・新卒業生の同窓会加入数が少ないこと
- 三・同窓会幹事に若手が少ないこと

と(若手の参加を募ります・事務局までご連絡下さい)

このような問題解決に、役員一同、叡智を絞っています。何か良い方策があれば、ご遠慮なく同窓会事務局まで御提案戴ければ幸甚です。一方、良いことの一つは、在校生に対し卒業生の体験に基づき、進路や仕事選びの参考となるよう、学校の授業時間の一部として1年に1度、定期的に『講演会』を実施してきたことです。初回は平成20年12月に実施され既に8回を数えました。第9回は平成27年12月24日(木)10時から本校体育館で開催されます。出席を希望される方は事務局までご連絡下さい。

さて、皆様もご承知のとおり、我が母校 東京都立中野工業高等学校が昭和21年4月中野区桃園町に、東京都立農業工業学校として創設されて70年の月日を経過しました。

我々同窓会役員として創立70周年記念行事について、先般来から学校側に意向を問うて来ましたが、この度、学校側から支援要請の呼

びかけがありました。9月10日(木)学校側(校長 鴻野先生・副校長 神谷先生・関係教職員・事務局長)・PTAと同窓会(会長 梅田・副会長 島田・事務局長 田中・事務局次長 塚田・副会長 海野は交通事情により欠席)と第1回準備委員会を持ちました。その結果、学校・PTA・同窓会が協力し、成功に向けて取り組むことを確認しました。

同窓会の取り組みについて、詳細は役員会で審議し推進して行きますので、皆様のご支援・ご協力のほど宜しくお願い致します。

## 同窓会の皆様方へ

学校長 鴻野 誠



本年度4月より、佐々木 哲前校長の後任として着任いたしました鴻野でございます。

同窓会の皆様方には平素より、本校の教育に格別なご理解、ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

私は、本校に着任するまでは、特別支援学校の副校長、東京都教

育庁指導部、東京都東部学校経営支援センター、東京都教育庁人事部に身を置き、主に教職員の指導行政・人事行政に関する職務に携わってきました。

工業高校におきましては、東京都立砧工業高等学校(現東京都立世田谷総合高等学校)

に10年程勤務した経験から、本校に来て生徒と会ったときは、何かとても懐かしく感じるものがありました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、同窓会の皆様方には、6月に九段下で行われた本校同窓会総会に参加させていただき、あいさつをさせていただきました。その際には、皆様方から、学生時代の様子、当時の大学進学、就職の状況、学校の校風など、様々なお話を聞かせていただくとともに、現在の本校の教育に対する熱い思いや期待、学校行事、部活動などへの支援に関してお伝えいただき、大変貴重な時間を過ごすことができました。改めて感謝申し上げます。

このような同窓会の皆様方からの、本校に対する熱い思いや期待の応えるため、現在、教職員が一致協力して生徒の人的成長を期して日々の教育に取り組んでいる

所です。

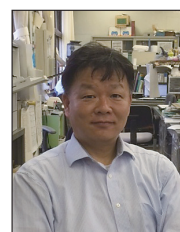
そこで、この書面をとおして、本校の学校経営計画の一端をご紹介します。本校の目指す学校、取り組み、将来像などについて同窓会の皆様方に少しでも知っていただければ幸いです。よろしくお願いします。

中途退学者対応と規範意識の関する先進的な取り組みを進めています。

から譲り受け、敷地を拡大し、平成37年完成を目的に全面的な改築計画がはじまります。

## 中野工業高校について

副校長 神谷 画歩



### 1 目指す学校

「本校は企業等への就職を目指す学校である。そのために、『あいさつを大事にして職業人としての立ち居振る舞いができる生徒』、『就職試験に合格できる学力の定着』を育成目標として掲げ、総合技術科の特色を生かして、教職員が学習指導、進路指導、生活指導等に組織的に取り組む学校を目指す。」

### (ウ) 生徒のチャレンジの支援

資格取得の取組、部活動の大会参加、研究発表大会への参加、地域の行事参加など、失敗を恐れずにチャレンジする取組を進め、生徒の可能性を伸ばしています。

### こうした状況に対して、入学してくる生徒を3年間の工業高校の教育で育て、産業界から求められる優位な人材を社会に送り出すことは、東京都の工業高校の使命であり、本校が目指す学校でもあります。

今後、この学校の実現に向けて尽力していきたいと考えています。同窓会の皆様方におかれまして、今後も本校の教育に対するご理解・ご協力を重ねてお願いするとともに、明日の職業人を育てるために、変わらぬご指導・ご鞭撻をお願いして、あいさつにかえさせていただきます。

(エ) 教員の授業力向上  
授業を実現するため、ICT機器を活用した授業など、授業環境を整備と教員相互による授業研究により教員の授業力の向上に努めています。

### 3 本校の将来像

#### (ア) 教育課程の創造

本校に現在設置されている食品工業科目、工業化学科目、機械科目の特色を出しながら、電気関係等の新たな科目導入、学科改編の検討を進めています。

#### (イ) 校舎の改築

東京都の基本計画に基づき、旧中野区立第六中学校跡地を中野区

### 2 今年度の重点目標

(ア) 中途退学者対応と規範意識の向上

東京都教育委員会から規範意識向上推進モデル校の指定を受け、

今年度副校長として本校に着任した神谷です。同窓会におかれましては体育祭記念品の受贈、12月の学校講演会、さらに梅田会長には来年度にとり行われる70周年記念式典の準備委員会実行委員長を快諾いただくなど、本校の教育に多大なご協力を賜り感謝申し上げます。

私の着任まもなく同窓会梅田会長を初め役員の方々より卒業後の進路や、本校への「思い」を込めた熱いお話しを聞く機会をいただきました。同窓生の皆様の卒業後の進路は多岐に渡り、我が国の産業振興に尽力いただいたことに感銘いたしました。工業教育の可能性の広さと70年間の歴史の重みが現在の中工を支えているんだと真に感じました。

私は初任、2校目と工業教育に携わり、初任のころには「ものづくりの楽しさ」を生徒に伝えられ

ればよいとの考えていたものでした。同じ工業科の先輩からは「工業の教員は生徒を社会で活躍できる人材に育て就職させてこそ一人前」と自分の職責に対する認識の甘さを戒められることがありました。自分自身振り返ってもものづくりすべてを楽しめたわけではなく、やらなくてはならない辛い作業こそが現在の自分を育て形作っていると感じます。

現在、本校は挨拶、公共マナーなど就職後に必要な社会人基礎力を向上させること、資格取得、部活動推進することなどを本校の重要課題に位置付けています。

専門的な「ものづくりを」教えることはもちろん重要ですが、総合的で実践的な「ものづくりで」社会人基礎力を身に付けさせるといふ発想をもちながら教育課程をデザインすれば本校ならではの教育目標を達成することができるとは思っています。

さらに本校の校舎、施設設備の老朽化に伴い改築委員会を立ち上げ、本校における次の10年後のグラウンドデザインについて鋭意検討しているところです。

前任の佐々木校長、豊岡副校長が築き上げてきた学校運営体制を鴻野校長とともに引継ぐ中で同窓

会の皆様にはこのような本校の現状及び課題をご理解いただくとともに、今後も本校の学校経営にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 中野工業高校の防災意識について

27年度PTA会長 高田 淳子

早いもので、中野工業高校にかかわり3年目となり、親子とも卒業年度を迎えました。現在は中工祭参加に向けて準備を進めているところです。

この度は、同窓会会報に寄稿させて頂きありがとうございます。同窓会の皆様におかれましては、かねてより本PTAに深い親交をいただき感謝申し上げます。これまでも子供たちの活動とともに学校行事など、折りにふれ同窓会の皆様よりお声かけいただきたくことで学校、同窓会、PTAが三位一体となった連携体制を築き上げてこられたものと感じています。

さて、東日本大震災から3年半が経ちましたが、被災時の惨状については昨日のことのように記憶しているのではないのでしょうか。

また、この30年の間に70%もの確立でこの東京にも直下型大地震

が起こるとも言われていて、防災は喫緊の課題と言われるようになりました。

おりしも、東京都は全世帯に対し、「東京防災」という家庭で備える防災や発災時の対応方法についてわかり易く解説した冊子を配布し、いざという時に備えるために具体的な手立てについて示し、広く都民に対し積極的に危機意識を喚起させています。

では、肝心の中野工業高校の子供たちや親世代の震災に対する防災意識はどの程度育まれたのでしょうか？

テレビやインターネットを通じて防災に関する情報は数多く発信され、「知っている」ことは増えました。が、平穏な日常の中で家族で「命の守りかた」について話題にすることは減ってきていると感じます。

10月には宿泊防災訓練がとり行われるということで、PTAとしても参加させていただき、私たち一人一人が「命を守る」当事者として防災意識を高めていくよい機会したいと思います。

### 事務局よりのお願い

同窓会の活動の様子や、同窓生

同志の情報交換の場として、本会報を発行しております。又同窓会の様子は母校のホームページの同窓会のページでご覧になれます。

同窓会活動資金として同窓会各年度（毎年）の会費二千円の納入をお願い致しており、毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約一万五百名の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員各位におかれましては、各種お知らせの際、同封の払込取扱票にて「会費二千円」を納入して下さいませ。

また、住所移転の際には是非とも事務局までご一報下さる様お願い致します。

現在、同窓生の住所の追跡調査をしております。同期・クラスに關係なく同窓生の所在が分かる方はご本人の了承を得てからご一報下さる様お願い致します。

問合せ先事務局

350-1304

狭山市狭山台2-25-12

田中 正二

TEL: 04-2958-4698

Fax: 04-2958-9729

E-mail: matnk37@ifty.com

## 講演会開催のお知らせ

第九回目と成る同窓生による講演会が開催されます。

日時 平成27年12月24日(土)

午前10時より

場所 母校体育館

講師 第9期機械科卒業の

吉原忠一様

演題 職に於ける国語・算数・

理科・社会

参加をご希望される方は事務局までご一報下さい。

連絡先 事務局 田中正二

Tel: 04-2958-4968

Fax: 04-2958-9729

E-mail: matnk37@nifty.com

中工を卒業してから、50年  
を迎えるにあたって

17FA 田代 和男



毎年、同窓会事務局から、同窓

会会報などや、総会のお知らせなどに触れるたびに、中工生だった頃のことを思い出し、自分にも、楽しい、高校生だった頃があったんだよなと一人、懐かしんでいました。今年、受け止め方が少し違いました。

来年の3月で、昭和41年の卒業から、満50年を迎える、節目にあたるし、同級生が風のたよりで、死んでしまったとの、訃報が届いたり。夢見に、旧友たちとの、東北地方への、修学旅行の楽しかった思い出の夢を見たりして、49年前に別れ分かれになってしまったままで、一度もクラス会を開催していない、食品工業科17FA44名の仲間、むしように会いたくなくなりました。

そこで、自分が、クラス会の幹事をかってに拝命して、クラス会を開催することを企てました。

ところが、50年近く経つまで、音信不通にしていた、クラスメイトの連絡先がまったく、判らず状態で、思案して、同窓会事務局の田中様に、クラス会を50年ぶりに、第1回のクラス会を開きたいと思うのだけど、17FAの生きている名簿がないか、お尋ねしたところ、ころよく、ご協力いただき、10名程の古い、名簿をいただくこと

ができました。この、名簿をたよりに、電話を掛けて、確認したところ、ひとつづつに、10名の現住所と、電話番号を確保することが、できましたので、平成27年10月6日(火曜日)午後1時に、新宿駅中央東口徒歩3分にある『椿屋珈琲店』に落ち合う事としました。

何人が集まることができるか、まだ、全容はわかりませんが、集まった旧友たちと、資料を持ち寄り、手分けして、音信不通になっていた、友人たちの掘り起こしも、是非したいものだ、と考えています。ところで、私たちが中工に入学したときに、大きな、出来事に遭遇したことを、改めて思い出しました。それは、団塊の世代であり、

男女平等の教育を受けた申し子が、工業高校という、男の牙城の硬い鉄の扉をこじ開けて、17期食品工業科に全校でたった一人だけの、

女子生徒として入学してきたのです。その人は、ほんとに、小さくて、可愛らしい、17FB在籍の旧姓・守田桂子君でした。この、守田君の入学が、呼び水となり、その翌年から、女子生徒が、ぞくぞくと入学してくるようになったのです。男ばかりの工業高校から、男女共学の工業高校へ様変わりした、ターニングポイントに、私たち17期食

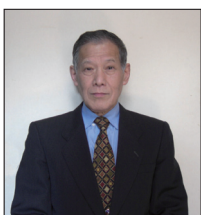
品工業科在籍者はかわってきたことになりました。守田君の単身女子入学の決意、動機や、その後の学園生活の苦労話などを、是非聞く機会もつくりたいと思っています。

私たちの年代は、仕事一筋の生き方から、そろそろ、リタイアして、年金暮らしで、ほそぼそと生きていかなければならない、入り口に、さしかかっているものとおもわれますが、いますこし、元気のうちに、中工時代の友達と語り、青春時代を思いおこし、パワーを再注入して、これからの、険しい老後に立ち向かっていきたいと、願っています。

末筆になりますが、17FAの名簿発掘の手がかりを下さった、同窓会事務局の田中正二様に謹んで御礼申し上げます。

## 第七回講演会開催される

「石油会社のもとに半世紀」、  
8MA 樋口 豊



同窓生による講演会が三年ぶりに再開され、三月十一日三百余名

の在校生（三年生を除く）に講演をさせて頂きました。

私は外資系の石油会社で潤滑油のセールス・エンジニアとして四七年間勤務し、六年前六九歳で退職しました。そんな事から、石油産業に於ける半世紀の技術革新をお話し、また健康でさえあれば人間七〇歳まで働けると言う事も伝えたくて演題を「石油会社と共に半世紀」としました。

講演の本来の目的は卒業生の貴重な体験を伝えると言う事ですが、私の仕事は、「機械メーカーとの潤滑油の技術折衝」、「石油製品を納入している顧客への技術支援」、「代理店への技術支援と技術教育」が主な役割でした。

「新しい知識を学びに来ている」在校生には、や、専門すぎる私の体験談よりは、この半世紀の石油産業の技術の進歩についての方が、皆さんのお役にたつのではと考え、そのお話を主体にしました。

私の石油会社での四七年は、「安い原油と熾烈な石油会社の販売競争」（一九六〇年代）、そして一転して「省エネルギー」（一九七〇年代の二度の石油危機で価格高騰）と「資源ナショナルリズム」（一九八〇年代から資源国が石油を国有化）、そして現在「脱石油」

（新興国の石油消費の増大と共に資源の枯渇と価格高騰）と「環境破壊」（二酸化炭素と地球温暖化）など、全地球的な問題となっており、起伏の激しい半世紀であったと言えます。

石油の歴史は紀元前から灯火などに使われてきました。一八五九年米国で綱式機械掘りによる油井採掘に成功して近代石油産業が始まり、石油はランプ用の灯油として使われました。一緒に採掘されるガソリン留分は、爆発的な燃焼を伴うので、川に捨てられて火災などを起こし、くず以下の厄介ものでした。

一八八六年、ドイツのダイムラーとベンツがほぼ同時に発明した自動車によって、捨てられていた厄介者がエンジンの燃料として、最も価値のあるものになりました。

以来、石油は人類が手に入れた最高のエネルギーとして、単に燃料にとどまらず化学原料としても有用で、石油を大量に安く供給する為に、石油の探査、採掘、海底油田開発、原油の回収技術、原油の貯蔵、タンカー、石油精製などで様々な技術革新がありました。在校生にお話ししたほんの一端を書かせて頂きます。

一、石油の探査—①地質探査—石

油を含む地層は六億年〜六千万年前で、中生代（アンモナイトや恐竜が繁栄）が多く、地層中に含まれている古生物を調べて地質年代を測定します。②資源探査—資源探査観測衛星のリーダーで地表の画像を解析しますが、もう人工衛星による地表の解析は終わり、残っているのは深海のみと言われています。

③物理探査（原理は医療の超音波検査と似ている）—地震探査では人工地震を起こし、その地震波を地下に送り、反射して戻って来た反射波のエコーをコンピュータ処理し、地下の三次元断面図を作ることが出来る。その他重力探査、磁力（地磁気）、超音波探査などがあります。

二、石油の採掘—回転式ロータリー掘削機が使われ、ビット（掘削具）が磨滅すると取り替えなければならぬが、一万メートルの掘削では1本一〇メートルのパイプを千本もつなぎはなしをしなければならぬので、容易ではない。

三、海底油田開発—陸上の石油開発の余地がなくなり、東京タワー（三三三メートル）より深い海域で油田を掘削し、プラットフォーム（原油の積み出し基地）が設置されている。更に二千メートルを超す大水深域での油田掘削もしていま

す。  
四、原油の回収技術—原油の自噴やポンプでの汲み上げの回収は二〇〜三〇%です。地下に水やガスを押し込む方法で三〇〜四〇%まで、更に水蒸気や界面活性剤を圧入して原油の粘性を下げる方法などで四〇〜五〇%まで回収出来ます。

五、原油の備蓄—日本の石油使用量は一日六〇万KL（東京ドームの約半分）。国家備蓄が一〇〇日分、民間備蓄が七〇日分で、計一七〇日分を全国一四ヶ所で備蓄。

その他、輸送コストを下げるための「巨大タンカーの出現」。「接触分解装置」（触媒のゼオライトに接触させて、重質油を低分子に分解してガソリン灯・軽油を造る）など石油精製装置の進歩で輸入された原油は捨てるものが無いほどに利用されます。

最後に、潤滑油のエンジニアとして日本の産業界のいろいろの需要に技術支援をさせて頂いたのですが、一番力を入れていたのが、アルミニウムやステンレスの圧延油で、その性能向上によって圧下率（つぶす割合）を大きく出来たり、圧延速度を上げる事で増産（顧客の利益向上）が出来た事などですが、そうした両業界の卓越

したパフォーマンスが「世界最速の圧延機に使われた圧延油」として日・英・仏・独・スペイン語の会社の技術広報誌で世界に宣伝されました。私が直接世界に羽ばたいた訳でなく、広報誌に載って少しばかり世界に羽ばたいたのですが、前途洋々たる在校生の皆さんには、英語も勉強して頂いて、夢と希望を持って、機会があれば世界に羽ばたいて下さる様、祈念して講演を終わりました。



## 生徒の感想文

1 A T・T

石油のおもな採り方について、こんなに多くのやり方があるのだなと思いました。勉強になりました。今回この講話を聴いて、中工から、こんなにすごい職業に就職しているのだと思いました。同窓会の方々

も、中工にいっぱい支援して、すごいなと思いました。

1 B S・R

石油の採り方は、地層の下の方にあるガスのかたまりや、水を入れて浮いてきた石油を採ることでした。石油を採るのは、エッフェル塔より深い海域より採ることを知りました。今回、石油についての話で言葉は聞いたことはあるけれど、ただ燃やすだけのものだと思うていました。石油を採るのは大変なことが分かりました。

1 C I・S

石油を採掘するまでにはたくさん過程があり、一つ一つがとても重要という事が分かりました。これから社会人になる上で、とても貴重な話を聞かせてもらいました。

1 D H・N

石油は昔からあり色々な場所から採れるということが分かった。あまり石油のことが分からなかったけど今回の講話を聞いて石油のことが少し分かった気がする。

2 A S・A

石油の採り方、種類など、もう陸では採れなくて、海でしか採れないこと、資源の大切さ等、勉強になりました。

海底油田もあり、海底にある石油は、いろんな方法で採り出せることを知った。石油は水より軽いから、水を入れて石油を採り出す方法があることを知りました。そのわりに

2 B I・M

5割ぐらいしか採れないので残ったものももったいないです。石油が海底にあることをはじめて知った。ベンツ歴史が150年前からあることを知った。昔の車は木製だったのですごいと思いました。

2 C K・M

石油を取り出す方法の説明を聞いて、そのあとにその機械の図を見て、色々の取り出し方を教わった。石油はとても大事な資源であるとともに、環境にも大きな影響を与えているのだと思いました。

2 D S・T

石油を採る機械がいっぱいあってすごかったです。水で石油を浮かして採る作業をしているのを初めて知りました。それでも割くらいしか採れていないということに、

どうして採れないのだろうと思いました。この学校卒業の人がこういう仕事をしてすごいなと思いました。これからも世界に日本の機械がまわればいいですね。

2 E M・M

石油について詳しくお話しをしてくださった。いくら好きな仕事につけてもその人の気持ちややる気がないと長く勤めていくのは大変だと思う。樋口さんみたく、みんながこういう仕事をやってみたいと思うように、気持ちや伝わるように人前で話すことはできないと思った。人前であんなに話せてすごいと思った。今回の同窓会講話はこれからのためにも話を聞いて良かったと思います。

## 第八回講演会開催される

「食べ物香りをつくる」  
10 F 角田



「講演内容」(H26・12・24開催)

1. 香りが類人猿を人類に進化させた理由について

1—1. 山火事が教えてくれた食べ物  
を美味しくする秘訣について  
古代より枯木と枯木の摩擦や火山  
等によって山火事が発生し、そこ  
で焼け死んだ動物の肉は香ばしい  
香りが発生し、まさに現代の焼肉  
の美味しさが再現され、また、木  
の実や野菜の味も熱が加わったこ  
とにより一層おいしくさせたこと  
により、猿人の味覚を一変させた  
ものと考えられる。

1—2. 火の発見が二足歩行の要  
因となる

火の発見に至った類人猿は調理へ  
の分野へと進出し、前足は食べ物  
を運んだり、食欲からくる調理の  
ために動かす現代人の手となった  
ため、後ろ足は移動する手段のた  
めだけのものとなり、このことか  
ら二足歩行の人類の祖先が誕生す  
るところに至ったと思われる。

1—3. 火の発見が脳を巨大化さ  
せ、人類への道を開く

火の発見により、あらゆる生の食  
材の香気物質がロースト臭や旨味  
となり、類人猿の食のレパートリー  
は膨大な数に広がり、摂取するタ  
ンパク質、アミノ酸、脂肪、炭水  
化物、ビタミン、カルシウム等の  
種類は増え続け、その食べ物によっ  
て猿人の脳は巨大化し同時に脳機  
能も発達し、猿人の本能に基づい

て動く脳は次第に考えるあしとい  
われる人類の脳へと進化を見せた  
と考えられる。まさに香りのおい  
しさが猿人を人類へと進化させる  
原動力となったといっても過言で  
はなく、香りなくして人類の誕生  
はあり得ず、現在も香料（香気物  
質）は人類の大きな財産となっ  
ている。

2. 香料（香り）が商品作りに重  
要な役割を果たしている業界につ  
いて

2—1. 菓子・食品業界について

菓子類のなかでも特にチューイン  
ガム、キャンデー、ドリンク類の  
売上は、実はそれらの商品に使用  
されている香料が品質を左右し、  
香料を作る調香技術者の腕がメー  
カーの運命を握っていると言っ  
ても決して過言ではない。

2—2. 化粧品業界について

化粧品の効能もさることながら、  
購入時に重要視されるのが香り  
であり、その香りは調香技術師の  
高い技術力が必要であり、売上げに  
直接的な影響を及ぼしている。

2—3. 医薬品業界について

医薬品全体の約10%が、皆さんご存  
じ“ファイト一発”の宣伝で有名  
な栄養ドリンクであり、その味は  
香料がなくてはとても飲めたもの  
ではないのである。

2—4. 香料業界について

さまざまな菓子・食品、化粧品、  
医薬品、タバコ、ガスのニオイに  
至るまで、香料会社の調香技術者  
の作った香料が使用されている。  
分析技術の発達した現代では、あ  
らゆるニオイを再現させることが  
可能となっている。

3. 香料開発技術者の業務内容

3—1. パフューマーとフレグラー  
リスト

調香技術師は化粧品系のパフュー  
マーと、食品系のフレグラーリス  
トに分かれており、前者は香水か  
らシャンプー、リンス、栄養クリ  
ーム、洗剤、柔軟剤などの商品の香  
り開発が主体となっている。後者  
は、チューインガム、キャンデー、  
ドリンク、アイスクリーム、ビス  
ケット等の菓子類から、ハム、ソー  
セージ等の畜産品、さらには酒類、  
調味料に至るまでの香り開発が主  
体業務となっている。

3—2. 最終商品の知識と開発技  
術

菓子・食品化粧品に使用される基  
材配合の特性や、加熱を伴う製造  
条件によって香料の品質は変化を  
してしまう場合があるので、調香  
技術師は、この点に十分留意して  
開発を行う必要性がある。

4. 日本フレグラー・フレグラー

大学院卒業生の「人の役の技術につ  
いて

4—1. フレグランスの調香技術  
の習得

香水や、シャンプー、石鹸、クリ  
ーム、洗剤等の香りを開発する技術  
を習得する。

4—2. フレグラーの調香技術の  
習得

ドリンク、チューインガム、キャ  
ンデー、インスタント食品等の香  
りを開発する技術を習得する。

4—3. 化粧品の配合と製造技術  
の習得

シャンプー、石鹸、クリーム、ファ  
インデーション、乳液等を開発する  
技術を習得し、フレグランス開発  
技術と組み合わせることにより、高  
品質の商品を開発する技術を習得  
する。

4—4. 菓子・食品の配合と製造  
技術の習得

ドリンク、チューインガム、キャ  
ンデー、アイスクリーム等を開発  
する技術を習得し、フレグラー開  
発技術と組み合わせることにより、  
高品質の商品を開発する技術を習  
得する。

4—5. 分析調香技術の習得

さまざまな食べ物や花の香りを専  
門の分析機器で分析し、その香り  
を再現してあらゆる商品へ応用す

る技術を習得する。

5・一般社団法人日本調香技術師  
検定協会について

5-1・調香技術師 1級

・香料会社において、即戦力として活躍出来る技術を有する。

・香料会社における調香師年数として7年以上と同等の調香力を有する。化粧品・食品会社の研究・開発部門では香料のみならず製品（ベース）の配合造作製でき、ヒット商品を生み出す実力を有する。

5-2・調香技術師 2級

・香料会社において、一人立ちの出来る調香師の少し手前の技術力を有する。

・香料会社における調香師年数として4年以上と同等の調香技術力を有する。

・香料会社において、技術営業を一人で推進でき、会社に利益を運べる力を有する。

・化粧品・食品会社の研究・開発部門では技術者の一員として香料のみならず製品（ベース）の配合迄開発できる実力を有する。

5-3・調香技術師 3級

・香料会社において、見習い程度の技術力を有する。

・香料会社における調香師年数として2〜3年程度の調香技術力を有する。



### 生徒の感想文

1 A N・K

味を感じているのが舌ではなく鼻という事がとても驚いた。又、類人猿が足で歩くようになったのも匂いや食べ物によるものと分かり進化の為に香りというのが大切なのだという風を感じた。

1 C M・R

香りを発見したのが類人猿で、そのきっかけで人類が進化したこと。類人猿が火を発見してそのきっかけで香りが出たのはすごいと思いました。キャンデー、ドリンクなどは味覚だと思っていましたが香り（鼻）も必要だと知りました。鼻をつまめば味がしないのが分かった気がします。

1 D S・M

香りにはクレグランズとクレーバーがあることが分かりました。山火事で類人猿が人類に進化したことが分かりました。山火事で焼け死んだ動物の肉をゴリラや猿が食べて料理することをおぼえた事が分かって良かったです。クレグランズは化粧品などでクレーバーが食べ物香りに使われている事が分かって良かったです。

1 E I・N

匂いの大切さを学ぶことができた。嗅覚があるのとないのとで味までも分からなくなるといふことにおどろきました。食べ物美味しくするの匂いは欠かせないものだと思うことができました。

2 A S・S

分析技術の発達した現在では、あらゆる匂いを再現できること知ったこと。香料が人間の生活に欠かせない物だということが分かった。

2 B U・A

香りが人間にとって、どう関係している、その重要性を少しだけ知ることが出来ました。普段はあまり

り気にしていなかった香りに少しだけ注意してみようと思いました。

2 C N・K

古代より枯木と枯木の摩擦や火山等によって山火事が発生し、そこで焼け死んだ動物の肉は香ばしい香りが発生し、現代の焼肉の美味しさが再現され猿人たちの味覚を変えたという事が学べた。

2 D N・M

人間は匂い無しでは誕生しなかったということ。そして食べ物があったから今の人類の姿があること。また、移動したりするため後ろ足が二足歩行に使われるため今の形になったのを知った。匂いについてもっと詳しくなりたいと思った。

3 A S・A

香りの起源は私が思っていたよりもずっと昔だったのでおどろきました。ミント香りもシャネルの香りもちゃんと調べてやれば作れるのだと知りました。

3 C K・H

人類の進化に香料が関係していたこと。食品と香り、匂いの関係のこと。勉強になりました。進化の話がおもしろかったです。匂いが



食品にどうやって関係しているか、匂いについてアバウトに知っていたけど、もっと詳しく聞けて、とても興味が沸きました。

3 D N・H

火を使うようになって類人猿は人間に進化し、さらに豊かな食事によって脳がさらに発達させたという事を知りました。

豊かな食事、美味しい食事が脳を刺激させ発達させたのなら、人間はより刺激を与えれば今よりさらに発達するのかなと思いました。

3 E K・M

香料にはフレグランスとフレーパーという香りがある、フレグランスはシャンプーや洗剤に使われ、フレーパーは菓子や食べ物に使われていることが分かりました。

### クラス会便り

17MA 西村満郎

昭和42年3月に卒業以来、皆と会っていないから「会いたいなあ」との事で、仙台の猿橋君より連絡頂きまして、平成10年11月3日の中工祭で参集致しました。9名の元気な顔を拝見致しまして野方駅近くの居酒屋で飲み喰い致

しました。

その後、毎年開催との事で、都度幹事は決めて、今尚現在も進行致しております。

今年、平成26年11月8、9日三浦半島の割烹旅館「立花」で開催しました。着いた当日より、まぐろ三昧の料理で満悦し、昔話で楽しい一夜を過ごしました。翌日は各自船で島巡りやら朝市を見物、購入したりして、解散致しました。

幹事の佐藤君は、卒業生42名に対し、住所判明者21名にハガキを送付、そして10名の参加でした。未だ住所不明者が居ますので、今回のハガキが届かなかった方は、幹事の佐藤君に連絡して下さい。(紙面を借りて)先輩や後輩諸君が気付いたら、佐藤君に連絡をお願いします。

荒川君、川口君 私は未だ1年の時の顔や、姿、恰好を強烈な印象を持って覚えていきます。連絡ください。

「連絡先」

〒207-0002

東大和市立野3-1-283-10

1-416

幹事 佐藤 巖

Tel 042-562-8710



## 平成27年度総会資料

### 平成26年度事業報告

### 平成27年度事業計画（案）

活動目標であった

- 1 同窓会会報の発行。10月25日に発行する事が出来ました。  
講演会の開催。 12月24日に開催する事が出来ました。
2. 行事（催し事）。
  - (1) 平成26年4月8日 母校入学式 3名出席 於:母校体育館
  - (2) 4月13日 役員会 11名出席 於:母校校長室  
25年度収支決算及び26年度予算案、総会開催に関する検討
  - (3) 6月8日 26年度同窓会総会 23名出席 於:グランドパレスホテル
  - (4) 6月9日 体育祭 2名出席 於:母校校庭
  - (5) 8月2日 役員会 6名出席 於:母校校長室  
会報・講演会開催に関する検討
  - (6) 9月20日 役員会 10名出席 於:母校校長室  
会報・講演会開催に関する検討
  - (7) 10月25・26日 中工祭（卒業生の歩み出展） 於:母校  
会報発送する
  - (8) 12月24日 講演会開催 10名参加 於:母校体育館  
講師:10F 角田一さん 題目:食品の香料について
  - (9) 2月8日 新春交歓会 23名出席 於:グランドパレスホテル
  - (10) 3月7日 母校卒業証書授与式 3名出席 於:母校体育館

基本計画

基本的には前年度を踏襲するが、さらに親睦を深め母校への支援を強化していく。  
新入会員の増員を図る活動を強化するとともに、会費増収活動を図る。  
会報の発行、中工祭（文化祭）に「卒業生の歩み」の展示を充実して行く。

1. 同窓会会員の親睦を一層深めるため、おおいにアピールをする。
2. 同窓会会報の発行。
3. 講演会の定時開催。
4. ホームページの更新強化。
5. 行事（催し事）。
  - (1) 母校入学式（4月7日）（同窓会より3名出席済み）
  - (2) 平成27年度定時総会（6月7日）
  - (3) 母校体育祭（6月上旬）
  - (4) 母校文化祭（中工祭）（10月下旬）卒業生の歩み出展
  - (5) 講演会（12月下旬）
  - (6) 新春交歓会（2月上旬）
  - (7) 母校卒業証書授与式（3月上旬）
  - (8) 役員会の随時開催（2ヶ月に1回程度）

### 平成26年度収支決算書

### 平成27年度収支予算（案）

収入の部		
入会金	102,000.	3,000. × 34名
会費	558,000.	2,000. × 279名
寄附金	216,000.	寸志も含む
臨時会費	174,650.	総会（懇親会）、新春交歓会
預金利子	171.	
小計	1,050,821.	
前期繰越金	717,669.	
合計	1,768,490.	
支出の部		
行事費	11,658.	中工祭、講演会
懇親会費	193,384.	総会（懇親会）、新春交歓会
会議費	7,268.	役員会
通信費	106,425.	
会報費	670,304.	会報印刷、発送料
同窓会入会記念品費	50,220.	校章、同窓会名入りパスタオル
体育祭参加賞費	95,580.	レポート用紙
事務用品費	6,515.	
振込み手数料	39,029.	
小計	1,180,383.	
次期繰越金	588,107.	内訳 三菱東京 198,325.
合計	1,768,490.	ゆうちょ 銀行 368,910.
		現金 20,872.

収入の部		
会費	600,000.	2,000. × 300名
寄附金	220,000.	
臨時会費	175,000.	総会（懇親会）、新春交歓会
入会金	105,000.	3,000. × 35名
前期繰越金	588,107.	
合計	1,688,107.	
支出の部		
行事費	12,000.	中工祭、講演会
懇親会費	195,000.	総会（懇親会）、新春交歓会
会議費	10,000.	役員会
通信費	110,000.	各種案内、その他
会報費	670,000.	会報印刷、発送料
事務用品費	10,000.	
同窓会入会記念品代	55,000.	
体育祭参加賞費	95,000.	
振込み手数料	40,000.	
予備費	491,107.	
合計	1,688,107.	

収支決算について上記の通り報告致します。

平成27年4月11日 会計 中村 真一◎ 会計 渡邊 修也◎

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成27年4月18日 会計監査 西村 満郎◎ 会計監査 江野下 健二◎

